



第四課

表と裏

単語

繰る → めくる

障る → 差し支える → 触る

大目に見る (✕ 大目で見る)

ハンケチ・ハンカチ

と題する・に題する

うちわ → 扇子

～を強いる → しいて (しいて言えば)

自国 → 母語 → 他国、外国

墮落 → 墜落

結合 → 団結・結束

単語

あくまで：① 際限がないさま。どこまでも。「—頑張る」「—も主張を貫く」②ある一定の範囲内に限定するさま。「—憶測に過ぎない」

暮れる：① 太陽が沈んであたりが暗くなる。夕方になる。↔明ける。「日が—・れてあたりが暗くなる」② 年・月・日・季節が終わりになる。「今年もあと三日で—・れる」③（「...に（で）くれる」の形で）一つのことをして、または一定の状態で長い時間が過ぎる。あけくれする。「きょうも一日練習で—・れた」④ 悲しみ・驚きなどのために理性的な判断ができない状態になる。「涙に—・れる」「途方に—・れる」⑤（「目がくれる」などの形で）欲望に負けて、判断力を失う。「金に目が—・れて根も無い事まで言立る」

ガックリ（副、オノマトペ）① 力が抜けて、急に折れ曲がったりするさま。「—（と）膝をつく」

単語

② 首が折れたように、いきなり傾くさま。息を引き取るさまにもいう。「薄寒さうに、一と頷くと見ると」

③ 張り詰めていた気持ちが一時にゆるむさま。落胆するさま。「大敗に一する」

④ 前後の差が激しいさま。「客足は一（と）減った」

至る：その段階・状態になる。「大事に一・らぬうちに火事を消し止める」

文型

1.～関わる・に（も）関わらず（N3～N2）

2.ほど

i 副助詞。意味：①多く数量を表す語や指示代名詞などに付いて，おおよその分量・程度を表す。

例：「あと五百万—あれば，土地が買えるのだが」

② ある特徴的な事柄をあげて，それにより動作・状態の程度を表す。

例：「泣きたい—腹が立つ」

③（下に打ち消しの語を伴って）程度を比べる基準を表す。

例：「今年は，いつも—暑くはない」「病気見舞い—うれしいものはない」

④（多く「...するほどに」「...ば...ほど」の形で用いられて）一方の程度が高ま

文型

るに比例して，他方も高まるという意を表す。...するにつれてますます。

例：「地位が高いー， 腰が低いものだ」

3.～（ない）ばかり（に）・んばかり（に）

意味：① かりうじてそうになっていないさまを表す。...しそうな。

例：「今にも泣かーの顔付き」

精読

- 1.日本人にとって、裏とは、いったいどのようなものなのか。
- 2.武士道の精神というのは、どういうことなのか。
- 3.なぜ、日本人の本質を問うなら、表よりむしろ裏という言葉の意味を探らなければならないのか。
- 4.中国人には、「本音」と「建前」があるのか。